

・企業大学訪問

今回の病院訪問で、私は、とても多くのことを学ばせていただくことができました。見学に行くまでは、医療の現場に対して、漠然とした憧れはあったものの、どのような技術が使われているのか、どのような作業が行われているのかなどは、あまり知りませんでした。病院というと、礼儀正しくしなければと思って少し緊張していましたが、駅まで車で送迎してくださり、とても温かく迎えていただくことができ、緊張がほどけました。

院内では、お話にもあった通り、電子パネル、電子カルテなどが活用されていました。患者さんのプライバシーに配慮し、受付で大声で名前を呼ばなくてもいい仕組みを取り入れるなど、患者さんを大切にすることをとても大切にしていらっしゃるんだなあと感じました。

今回の見学では、想像していたよりずっと沢山の装置、作業の場、施設などを見せていただくことができました。CT、MRIなどは、だいたいこんなもの、というイメージはありましたが、実際に見るのは初めてでした。画像診断に力を入れていらっしゃるということで、珍しい最先端の装置を見せていただくことができ、とても貴重な体験をすることができました。また、そんな素晴らしい装置を使っても、使うのは人間で、人間の操作する技術が必要とされるということが分かりました。このことについては、一眼レフのカメラでも、撮影する人によって作品が異なるのと同じことだと例えていらっしゃるのが印象的でした。

手術室に入らせていただいたことも、まさか入れていただけとは思っていなかったもので、とても嬉しかったです。

また、リハビリをしているところでは、スタッフの方が沢山いて、丁寧に一人一人の患者さんの動きを手助けしていました。それぞれに合わせたリハビリの方法がとても沢山あることに驚き、そのように細やかなケアをすることが、患者さんの回復に繋がっているんだなあと感じました。

病院に関連する他の施設も、見学させていただくことができました。通所リハビリテーションの施設では、お年寄りの方たちが楽しそうにカラオケをしていました。介護が必要なお年寄りが施設に通って日常生活が楽になるようなリハビリを行うことで、お年寄りの方本人だけでなく、介護をする人の負担も軽減されるということでした。この施設や、他にも実施されている取り組みなど、地域のために貢献することも大切だということ、またそのための医療のかたちについても、学ばせていただくことができました。

この他にも、様々なお話を伺うことができました。今回見せていただいたもの、聞かせていただいたことは、どれも新鮮で初めて触れることばかりでした。今回の体験を通して自分の将来について考え、意志を固くすることができたように思います。温かく迎えてくださったこと、沢山のことを学ばせていただいたことへの恩返しにすることができるよう、この体験を存分に生かし、自分の目標に向け努力し、成長していきたいです。

・東京大学見学会

東大オープンキャンパスでは、大学の雰囲気に触れることができました。大学の敷地内にはいろいろな施設があり、自然もあり、町のようにも、公園のようにもありました。朝はかなり早くホテルを出発し、大学にも早く着いたので、まだこの企画も始まっておらず、本郷キャンパスの中を、しばらくうろうろしていると、小さな子供を乗せた自転車で走っている人を何人も見かけました。その時は、保育園などの送迎に大学の中を、通って行くのかなと思ったのですが、その後移動している時に大学の構内に保育園のような施設があるのを見かけました。教育、研究のためにそこまで環境を充実させる事ができるのは、すごいと思いました。また、その配慮は、今とても必要とされていることで、最先端の配慮だと思いました。

まず最初に、赤門を見学しました。赤門のところには、高校生はもちろん、外国人の人も多くいました。留学生が多く、世界の中でも、最先端の研究行われていることを印象付ける光景でした。

企画が始まる時間になると、医学部図書館を見学することができました。普段は手続きをしなければ入ることができない施設でしたが、オープンキャンパスなので、高校生だと言うだけで、入れてもらうことができました。中では、大学生の人がノートパソコンで文章を書いている、大学生でも、パソコンを使いこなすことが必要なんだなあと思いました。また、診療科ごとに棚が別れていて、英語の本や、分厚いものすごく大きな本など、医学に関する本ばかりが、ものすごい量集められていました。時間があつたので、少しだけ読むことができました。知りたかった分野についての本が読めて、とても勉強になりました。読んでみたい本が他にも沢山あつて、自分が進学する大学にも、こんな図書館があつたらいいなと思いました。

次に、健康と医学の博物館を見学しました。東大医学部の歴史について年表のようにして紹介されていて、思っていたよりずっと前から、江戸時代から東大の医学部の前身となる組織があつたことに、とても驚きました。また、色覚異常検査表など、手書きとは思えないほどの正確さでした。特別展では、法医学について紹介されていました。法医学というと、解剖をするというイメージしか持っていませんでしたが、いろいろな方法で死因を解明したり、研究を重ねたりすることで、事件の本質をも明らかにすることができる分野だということがわかりました。特に印象に残つたのは、CTによって、解剖を行わずに骨折などを目に見える形にする技術です。これまでは、すべて解剖によって確認していましたが、体全体に及ぶ骨折、頭蓋骨の内部など、解剖が難しい場合に、活用する方法として、CTによって、骨折している部位、また傷の向きまで、鮮明に撮影することができるようになりました。また、この技術を用いることで、体に傷をつけることなく資料を取る事ができるという利点もあります。

私は、遺族の人たちなどの気持ちを考えると、解剖をせずに済むということは、とても意味のあることだと思いました。もうひとつ、驚いた技術は、血液中に含まれる藻の一種を検出することで、死因が溺死であるかどうかを解明できるという技術です。藻の一種であるその植物が、血液中の成分と結合しやすいという特徴から、溺死である場合には、身体中の血液から藻の成分が検出されますが、何らかの原因で死亡したのちに水中で発見されるような事態であつた場合には、藻の成分は検出されません。藻と血液が結合するということを知って、少し怖いとも思いましたが、血液の成分を調べるだけで、死因が特定できるというのは、すごいと思いました。また、一見関係無いように思えることも、体の中では繋がっているということに、改めて驚きました。

昼食は安田講堂の下の学生食堂で取ることができました。麺類が人気なようで、お急ぎの方は麺類以外をお選びくださいという声が飛び交っていました。その声もかき消されるほど、学生や大学で働く人、オープンキャンパスに参加した高校生などで賑わっていました。食券を買わなければいけなかったり、水やスプーンなどは、自分で取らなくてはいけなかったりして、戸惑いましたが、大学の食堂の雰囲気を楽しむことができ嬉しかったです。また、食堂の壁には、マンションなどの物件の紹介や、七大戦の途中結果などが貼り出されていて、大学生の生活の様子を少し知ることができました。安田講堂での説明会には、事前登録が必要でしたが、登録をしているかどうかを、東大から送られてきた登録確認メールを表示した画面を見せて確認していて、デジタル化が進んでいることを感じさせられました。

今回のオープンキャンパスで、大学生としての生活、学びについて沢山のことを知ることができたと思います。自分の進路や、数年後にありたい姿など、考えることができ、大学生になることが楽しみだと思うようになりました。これからは、大学生になれるように、また、その先の生活を楽しめるようにも、頑張っていきたいと思いました。

東京大学

医学部 2号館本館



東京大学
食堂にて

